

西落合小学校いじめ防止教育プロジェクト活動報告書

2021年2月22日(月)、25日(木)に多摩市立西落合小学校6年生を対象とした『いじめ防止教育プロジェクト』を実施しました。いじめ防止教育プロジェクトは、本学が行う学校応援プロジェクトの中でも初の試みでした。手探り状態だったことに加え、コロナ禍ということもあり活動が難航した時期もありましたが、約一年間様々な準備に取り組み、西落合小学校の校長先生を始めとする先生方のご協力あって実施に至りました。



今回の授業では、「LINE いじめ」を取り上げました。22日に6年2組、25日に6年1組の児童と一緒にいじめについて考えました。授業に向けては、事前に学生同士で話し合いのリハーサルを行う等の準備をしっかりと行いました。その際、「いじめ」という深刻でセンシティブなテーマを取り扱うということを念頭に置き、児童の様子に細心の注意を払うこと、臨機応変に児童からの質問や話に対応することを確認しました。



当日は、教室に入って学生が一人一人自己紹介し、学生リーダーがLINEについて簡単な説明を行った後、学生と児童がグループに分かれて話し合いをする、という流れで行いました。



まず、アイスブレイクで話し合いが始まります。「自己紹介をしよう、名前の他に自分の好きことや興味のあることを教えて。」「鬼滅の刃！」グループによってさまざまな回答があります。少しずつ打ち解け和やかな雰囲気の中で、学生が作成した『LINE いじめの事例』をもとに、児童と一緒に事例の中に登場する被害者の気持ちについて考えたり、「いじめとは何か」について話し合ったりしました。「やられている人が嫌

だと思ったらいじめだと思う。」「Bさんはいじめではないと思う」など真剣に話し合いをし、ワークシートに記入する姿が非常に印象的でした。また、児童が素直に思いの丈や考えを学生にぶつけてくれる場面もあり、1日目は35分間があっという間に感じられるほどに、活発な話し合いができました。



2日目は、1日目の反省会の内容を踏まえ、児童へ事例を説明する際の言葉選びや配慮、指示方法等を再確認した上、更に、話し合いの時間も

40分に拡大して話し合いに臨みました。2日目のクラスの児童も、一人一人が自分の意見をしっかりと持ち、思い思いに話をしてくれました。「Aさんがしていることは、いじめです」「BさんとCさんは、悪気はないと思う。」「でもDさんは傷ついてないかな?」「BさんとCさんはDさんの気持ちに気が付いたら何をしたらよかった?」など、学生からの問いかけに児童がいろいろと考えを巡らせます。

2クラスの児童に共通していたのが、普段からよく考えているためか、多くの児童が「いじめ防止対策推進法」を知っている等、いじめに関する知識を持っていたところです。時には、学生が深く考えさせられるような意見が出たり、多様な視点から自由に意見が出たりと、どのグループも、学生と児童が同じ目線で「いじめ」について考え、意見交換することができたようです。授業の最後にはどちらのクラスも「やられて、傷ついたり不快に思ったりすることは『いじめ』であること、相手の気持ちを思いやること、気づくことが大切」とまとめました。

話し合いを終えた後は、児童一人一人に、星型やハート形など様々な色・形のカードに考えたことや湧きあがった思いを書いてもらい、大きな地球型の台紙に貼り付けました。クラスごとにみんなで一つの制作物を作ることができました。みんなカードに一生懸命びっしりと書いてくれており、授業を真剣に受けてくれたことが伝わってきました。授業の最後には、数名の児童が「授業がわかりやすく、いじめについてよく考えることができた。」「自分もLINEを使っている。コロナ禍で更にLINEを使う機会が増えているから気を付けたい。」等、準備をしてきた学生にとって非常にうれしい感想を発表してくれました。

今回授業をさせていただいたのは、小学校の卒業を控えた小学6年生の2クラスでした。これから始まる中学校生活で、新しい出会い等様々な経験をしていく中でも、今回の授業でみんなで話し合っただけ感じたことや考えたことを忘れず、大切にしてもらえたら願っています。コロナ禍で大変な中、快く迎え入れてくださり、授業実施に協力してくださった西落合小学校の校長先生を始めとする先生方、初対面の学生と「いじめ」という重たいテーマに向き合ってくれた6年1, 2組の皆さん、ありがとうございました！

